

Y02a 木村栄の書跡から学ぶ緯度観測所初代所長の地域コミュニケーション術

馬場幸栄（人間文化研究機構）

緯度観測所（岩手県水沢に明治32年設立された文部省直轄の天文台）の初代所長を務めた天文学者・木村栄は、緯度観測所と地域の人々との交流を重視し、地域から愛される緯度観測所をつくったことで知られる。しかし、木村がどのような範囲・レベルまで地域の組織・個人と交流していたのかを示す研究はこれまでほとんど行われてこなかった。そこで、地域の組織・個人に対して木村が自らしたためて贈ったという書跡について調査することで、木村が交流した組織・個人の範囲とレベルに迫ることとした。胆江日日新聞や聴取調査を通して情報収集を行ったところ、約20点の書跡の所在が確認された。そこで、各所有者のご了承を得てそれらを奥州宇宙遊学館に集め、来歴や文章の内容について精査したところ、木村から書跡を受け取っていたのは、組織としては地元の神社、小学校、女学校、商業高校、料亭等、個人としては緯度観測所の小使い（用務員のこと）や女性所員と、非常に幅広い層であることがわかった。また、木村は贈る相手ごとに相応しい文言を選び、ほぼ毎回異なる内容をしたためていたことも判明した。木村は緯度観測所の所長として、極めて広範囲にわたる組織・人々を対象に交流を行い、交流相手の特徴についても理解していたのである。こうした木村の幅広く細やかなコミュニケーション術は、地域の人々から愛される天文台をつくりたいと考えている現代の多くの天文台関係者たちにとって、ひとつの示唆となりうるだろう。